実証論文の一般的なスタイル

＜実証形論文の一般的な構成＞
タイトル title
要約*abstract
I.　序論 introduction
II.　分析の枠組み analytical framework
III.　データおよび推定方法 data & methodology
IV.　分析結果と考察 results & discussion
V.　結論 conclusions
参考文献 references
付論*（補論）appendix

＜各セクションの構成＞
タイトル title
<採点基準>
- 論文内容を正確に表しているか（内容が容易に分かるものであるか）
- 他人の興味を引き付けられるものであるか（ただし奇抜なものはマイナス）

要約*abstract
1. 問題背景 background
2. 研究目的 purpose
3. 分析手法 method
4. 分析結果 results
5. 結論 conclusion

I. 序論 introduction
1. 問題設定 setting
2. 先行研究 literature review
3. 研究の必要性 missing information
4. 研究目的 purpose
5. 研究の有用性 value
6. 論文構成 organization

<採点基準>
- 分析の背景や目的、分析対象が明確に述べられているか
- 先行研究との関連性、Gap が明記されているか
- 当該研究の重要性を説得的に述べられているか
- Research question は予備知識のない読者にもわかりやすいように丁寧に解説されているか

II. 分析の枠組み framework
1. 経済（理論）モデル theoretical model
2. 計量モデル econometric model

<採点基準>
- 序論で設定された問題をどのような手法で解くのかが明示されているか

・　（理論モデルから計量モデルを導くための）変数や関数に関する諸仮定は明示されているか
・　互いに矛盾することが述べられていないか

III.　データと推定方法 data and method

1.　データ概要（統計量）data description
2.　推定方法 method

<採点基準>

・　データの性質（サンプルサイズ、統計量など）や定義、出所は明示されているか
・　論拠としたデータは信頼性のあるものか
・　データは設定された問題に対して適切なものか
・　推定方法（OLS など）はその仮定（or 仮定の妥当性）を踏まえて使用されているか

IV.　分析結果と考察 results & discussion

1.　結果（図表）の提示 location of results
2.　重要な発見の明示 findings
3.　結果のコメント comments
　(a)　結果からの一般化 generalize from the findings
　(b)　結果に対する考えられうる理由 possible reasons for the results
　(c)　他の研究結果との比較 compare with the other results

<採点基準>

・　本文では図表を見なくても分かるような説明になっているか
・　論拠は十分に集められているか
・　議論は妥当か？論拠から最終的な帰結まで論理の飛躍はないか
・　（分析結果などによる）事実と考察が峻別されているか

結論 conclusions

1.　研究目的・仮説 original hypothesis
2.　新たな知見 findings
3.　発見の説明 explanation for findings
4.　分析の限界 limitations
5.　今後の課題 need for further research

<採点基準>

・　論文全体がこのセクションで簡潔にまとまっているか
・　結論は導入部の問いに対応した形で述べられているか
・　何が明らかになり、何がまだ明らかになっていないか、を明確に述べているか
・　今後の課題を明確に述べているか

付論*（補論）

ここでは本文に収めると論旨の流れを妨げるが、脚注に収めるには少し長い説明などを書く。

参考文献 references

日本語、英語、その他の言語に分け、日本語は著者の 50 音順、英語、その他の言語は著者のアルファベット順に並べる。経済学では一般的に APA (American Psychology Association) style が多い。下

記、あるいは講義用・実習用テキスト巻末の参考文献の書き方を参照のこと。
（例）
＜日本語文献＞
岡崎哲二（1997）『工業化の軌跡』読売新聞社.
小倉明浩（1993）「工業化戦略の展開」小池・西島編『ラテンアメリカの経済』新評論.
加藤弘之（1995）「中国の市場経済化と地域格差」『国民経済雑誌』vol.171, no.4, pp.57-80.
加藤弘之（1999）「中国の地域格差、国内市場の統合と地域政策」『国民経済雑誌』vol.179, no.6, pp.77-96.
＜英語文献＞
Jian, T., J. D. Sachs and A. M. Warner (1996) "Trends in Regional Inequality in China," *China Economic Review*, vol.7, pp.1-21.
Jones, C. I. (1998) *Introduction to Economic Growth*, N. Y.: W. W. Norton（香西泰監訳『経済成長理論入門』日本経済新聞社 1999 年）.
Jorgenson, D. W. (1961) "The Development of Dual Economy," *Economic Journal*, vol.71, pp.309-34.

<その他の注意点・採点基準など>
- 評価以前の常識
  - Plagiarism に注意する。Website や他人の論文、本からの盗用はもちろんのこと、citation ミスも最悪の場合、懲戒規定が適用されることもある。
- 授業との関連性
  - Replicable な分析・記述となっているか
  - これまでの授業内容を踏まえた分析（推定・検定等）を行っているか
  - 与えられた課題に対応した term paper になっているか
- その他形式など
  - 読者に議論の流れがわかりやすいように本文の各段落は配置されているか
  - 段落分けは適切か
  - 文頭と文末の対応はとれているか（論理矛盾がないか）
  - 誤字・脱字はないか
  - 脚注、（本文内の）文献引用、参考文献リスト等は適切か